2 女性閉経後急性膀胱炎症状に対する清心蓮子飲の抗菌薬投与期間短縮効果について

独立行政法人　国立病院機構　神戸医療センター泌尿器科[1)]
センプククリニック[2)]、三谷ファミリークリニック[3)]
あきば伝統医学クリニック[4)]
大岡　均至[1)]、千福　貞博[2)]、三谷　和男[3)]
秋葉　哲生[4)]

【目的】女性閉経後急性膀胱炎（AUC）に対する、抗菌化学療法は再発なく治癒させることが比較的困難な場合が多いとされており、抗菌薬投与に関しても比較的長期間になることもありうる。今回CPDX-PR100mg*2/day（CPDX）に清心蓮子飲（TJ111）併用群と非併用群の間で自覚症状・他覚所見を比較し、再発頻度を悪化させず、抗菌薬投与期間を短縮可能か否か検討したので報告する。

【方法】起炎菌が非耐性大腸菌のAUCと診断された50症例（年齢中央値63.0[53-76]歳）。CPDXを100mgx2/dayにTJ111 7.5g併用群（I群:25例）とTJ111非併用群（II群:25例）に任意に割り付け、5日後再診時に全症例検尿正常化・尿培養陰性を確認した。その後、残存する頻尿VAS（0-100）と排尿終末時痛VASを確認し、患者さんの希望があれば薬剤をもう2日間追加投与し、7日後に同様の検討を行った。また、初診から3か月後に個々の症例に連絡し、その間の尿路感染再発の有無につき問診した。

【結果】5日目の時点で、I群では、頻尿VAS:10.8(0-19.8)、疼痛VAS:11.2(0-16.1)。II群では40.1(0-62.3),51.6(0-72.5)、投薬継続を希望した症例はI群で2/25例（8%）、II群では12/25例（48.0%）であった（いずれも$p<0.0001$）。7日目の時点ではI群頻尿:0、疼痛0、II群頻尿9.8(0-12.3)、疼痛8.2(0-9.1)であった。治療開始後3か月目に、個々の患者さんに尿路感染の再発に関して質問したが、再発症例はなかった。まとめるとI群における23例（92.0%）はCPDX投薬5日間でAUC随伴症状少なく休薬が可能であり、II群では13例（52.0%）がCPDX7日間の投薬を必要とし、その際の自覚症状の改善も不良であった。

【考察】TJ111は、四君子湯ユニットを含む参耆剤であり、少陽病期の気陰両虚で虚熱を伴う上盛下虚症例が良い適応となる。薬効としては利水・消炎作用より補気・安神作用が期待される尿路症状に用いられる方剤である。今回の検討では、AUCに対する抗菌薬投与期間短縮効果とAUC随伴症状改善効果が認められた。